

寒冷地形談話会通信

1981.5.2発行

1. 5月例会のお知らせ

5月16日(土) 午後2時30分より、明大大学院(教室は当日掲示)

・肥後高志氏(明大卒論)・横山秀司氏(明大・研)
“谷川連峰の森林限界について”

・下川和光氏(明大・院)
“只見川上流域の雪崩地形”

※おさやの合わせの上、多数参加下さい。

2. 4月例会にかえて、～筑波大の集会報告より～

去る4月5日(日)、日本地理学会(於:筑波大)の昼休みを利用して、談話会の集会を開きました。16名の予定が参加され、簡単に自己紹介のあと、小野有玉氏(筑波大)の司会で会が進められました。

まず、事務局から昨年度の活動報告と今年度の活動方針が発表され、本年度も従来どおり、研究発表を中心とした月例会を開くこと、年々増加する学生会員のための教育的立場で運営を進めることが明らかにされました。

全の話題の中心は、夏の学校の候補地や秋に10周年を迎えるにあたり、このことがもたらした、詳細については次号で報告することにいたします。

～昨年度の月例会をふり返。て～

4月・滝口正三氏(自然保護協会)

“北山内蔵之助谷における斜面の安定度と植生の関係”

・シンポジウム

“寒冷地形談話会に何を望むか”

5月・田淵 洋氏(法政大)・野口泰生氏(ハワイ大)

長谷川河氏(法政大)

“マウイ島ハレアカラ火山の周氷河地形について”

6月・山川信之氏(学芸大卒論)

“樺高連峰洞沢カールにおける崖線の形態と構成物質の諸性質”

・上野幸一氏(駒大卒論構想)

“周氷河地域の風の指標物と周氷河地域に及ぼす風の影響”

・原 篤氏(学芸大卒論構想)

“谷川連峰西部平標山周辺の黒ボク工礫について”

7月～9月 IGCのため中止

10月・佐藤又氏(前東大)

“私の地形研究～アフリカの地形を中心に～”

11月・伊藤真人氏(東大・研)

“北アフリカと南東部に於ける気候段丘の形成について”

・相馬秀広氏(東大・研)

“北アフリカの高山帯・亜高山帯・山地帯の泥炭層に混入する砂礫層”

12月・鈴木由告氏(上野高)

“秋葉山地・金峰山における垂直分布帯”

1月 中止

2月・萩原弘氏(専大4年・研究発表)

“針ノ木雪溪における融雪について”

・清水長正氏(駒大・院)

“秋葉山地の岩塊流・岩塊斜面”

3月・吉田直隆(都立大卒論)

“利根雪溪の夏季融雪について”

・吉永秀一郎(都立大・院)

“三陸小平川中下流域の段丘地形”

3. 事務局から

・1981年度住所録をつくりました。住所を変更された方は至急ご連絡下さい。

・郵便料金の大幅値上げのため、談話会の会計が苦しくなっております。2年以上滞納の方は5月末までに会費をお送り下さい。入金のない場合は連絡を打ち切り、自動退会の扱いにさせていただきます。本会会員は現在86名ですが、2年以上滞納の方は3名に達していません。

あなたの未納分は 年分 〇 円です